令和２年度　学力向上を図るための全体計画

中３　練馬区立豊玉第二中学校

関係法規
- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学校教育法
- 学習指導要領

東京都教育委員会教育目標
練馬区教育委員会教育目標

学校教育目標

・正しく判断し行動できる人
・健康で実行力のある人
・広い心で思いやりのある人

地域の実態

本校卒業生の保護者が比較的多く、協力的で学校に対する関心度が高い。

地域・保護者の願い

確かな学力の定着、物事に柔軟に対応でき、個性豊かな人間形成

期待される生徒像

自ら考え、判断して行動できる生徒
自他を思いやり逞しく生き抜く生徒

学校経営方針（学力に関わる要点）

「確かな学力」によって、正しい判断と行動ができる生徒の育成
①基礎的・基本的な知識および技能を確実に身に付け、それらを活用できる生徒の育成
②思考力、判断力、表現力、言語力等の能力を活用して、課題を探求できる生徒の育成
③学習に主体的に取り組むことができる生徒の育成

各教科の指導の重点

国語	・読む、書く、聞く、話すについての基礎的な学力を身に付けさせ、読解力を高め、表現能力を育成する。
社会	・三分野の基本的な知識の定着のうえに、社会的事象に対して自ら学び、考える力を育成する。
数学	・習熟度別の少人数授業によって、思考力を高める授業を展開し、必要な知識と技能を身に付けさせる。 ・数学的活動を通して、自ら考え意欲的に学習できるようにする。
理科	・班活動など生徒が自主的に活動する時間を増やし、問題解決能力を育成する。 ・既習事項の反復学習や実験・観察の結果を充分に考察・解釈させることで、科学的な思考力を育成する。
音楽	・表現や鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てる。 ・様々な音楽文化に触れることにより、音楽に対する興味・関心を高める。
美術	・豊かに発想し、構想する能力や基礎を身に付け、自己表現を豊かにし、作品を完成できるようにする。
保体	・生徒の興味関心を引き出すことを目指し、「分かる指導」と「ほめる指導」を実践する。 ・基礎的・基本的な知識を活用し、日常生活に活用できるようにする。
技・家	・小学校の学びの連続性を実感させることで、生徒の興味・関心を引き出す。 ・生活に役立つ基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる。
英語	・4技能の基礎基本を身に付け、積極的に言語活動を行い、コミュニケーション能力を育成する。新たに加わった「やりとり」も授業に取り入れる。

本校における「確かな学力」

本校では、質の高い教育を提供し、次の力を育成する。

○各教科において、小・中学校の系統性を生かした指導によって、評価基準に対応する基礎的・基本的な知識技能を習得させる。
○問題解決学習、体験学習、実験・観察等の多様な学習方法を組み合わせたアクティブラーニングを積極的に推進し、主体的に取り組む態度や思考力、判断力、表現力を育成する。
○総合的な学習の時間において、言語活動を重視し、学習活動のまとめや発表の場を工夫し、思考力・判断力・表現力を育成する。
○朝の読書活動、ラーニングゾーンとしての学校図書館の有効利用を計画的に進める。

総合的な学習の時間の指導の重点

・第1学年では「社会を知る」をテーマに、自己と他者への理解を深め、将来の生き方について関心を高める。
・第2学年では「社会を体験する」をテーマに、他者との関わりの中で自分を生かし、よりよく生きようとする態度を身に付けさせる。
・第3学年では「社会にはばたく」をテーマに、
将来の生き方について具体的な目標をもた、主体的に進路を選択させる。

キャリア教育の指導の重点

・自分らしい生き方を主体的に追求し、自らの生き方を自己決定できる生徒を育成する。

道徳教育の指導の重点

・道徳的心情・判断力・実践意欲などの道徳性を培い、規範意識を身に付けさせる。
・道徳教育推進教師を中心として、効果的な指導を行い、道徳性を高める。
・道徳授業地区公開講座の実施により、地域・保護者の道徳教育への理解と連携を深める。

特別活動の指導の重点

・学級活動、生徒会活動、学校行事を通し、集団の一員としての自覚をもたせ、生徒一人一人が自己肯定感を得られ、個性が生かせる教育活動を充実させる。
・児童・生徒の協働を通して、思いやりの心を育む。

生活指導の指導の重点

・人との関わり方を体験的に学ばせ、他者理解を深め、共に生きる態度を身に付けさせる。

小中一貫教育

・9年間の学びを接続して充実する共同体としての小中連携の推進を目指す。
・「中学校教員による教科等の学習指導」、「連携教室で送る学校生活」、「小小連携による学び合い」「小学生の中学校行事への参加」「あいさつ運動」「小中交流授業」等の小中一貫教育プログラムを実践する。

生きる力
自ら学ぶ・自ら考え、判断、実行
問題解決能力・主体的態度
基　礎　・　基　本

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研修・研究の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・各教科で生徒の実態や生徒の授業アンケートの結果等を分析し、指導内容や指導方法の課題を明確にし、工夫改善を図る。 ・数学、英語の習熟度別授業を通し、きめ細かく展開する授業の研修を深める。 ・電子黒板、書画カメラ等の電子教育機器および教具等の整備を図り、分かる授業へ有効に役立てる指導を工夫する。	・数学および英語の学習においては課題や習熟の程度に応じた習熟度別授業を効果的に実施し、学力向上を目指す。 ・月2回の土曜授業、水曜日6校時（裁量の時間）の授業の実施等で、1015時間の授業時数を確保する。また、状況によっては土曜日を6時間授業とする。 ・夏季休業中の学力補充教室を充実させる。 ・練馬区小中一貫教育実践校として、教科等の連続性・系統性のある授業や教育方法等を実践する。	・練馬区小中一貫教育実践校として、校内研修の研究主題を「9年間の学びを連続して充実させる共同体としての小中一貫教育の推進『交流』から『学びの連携・一貫』へ」とする。 小中で連携した指導方法の工夫・改善による学力の向上を目指すことを軸とし、より質の高い教育を実践する。 ・「新指導要領」について、講師を招き研修に取り組んでいる。	・生徒による授業評価を各教科で実施し、以降の授業に生かす。 ・保護者に対しては、学校公開と11月には学校評価アンケートを実施する。 ・生徒に対しては授業アンケートを実施し、授業についての状況の把握と授業改善に役立てる。	「開かれた学校」を目指して ・運動会や道徳授業地区公開講座を土曜授業日などに設定し、地域に広く公開する。 ・各行事の実施について、町内会や小中連携を図るため近隣小学校へ周知する。 ・保護者や地域の人材（学生ボランティア等）を活用し、教育活動を充実させる。